

ケアマネジメントの展開・演習 認知症に関する事例

平成29年度 実務研修9日目・更新・再研修8日目

演習

習得目標

認知症の

スを実施で

ケアマンシ

- ①脳神経疾患(認知症の原因疾患、病期、脳病変と損なわれた機能と残っている機能)
- ②身体状況・感覚(認知症以外の疾患・視力や聴力、歯の状態など)
- ③生活歴(学歴、成育歴、職歴、結婚歴など、経済状況、趣味や知己での活動など)
- ④性格・気質(本来の性格、気質、能力、物事に対する対処スタイルなど)
- ⑤心理社会関係(人との関わり方、介護者や周囲の人への認識、支援する人などの対人関係、本人と関わる全ての人との関係性)

①インタビュー(受理面接)⇒信頼関係の構築

②アセスメント⇒収集・整理した情報を分析・統合(ハートマンセン
タードケアの5つの要因) ⇒P225参照

③ケアプラン原案作成⇒P226参照

④サービス担当者会議⇒目標の共有化

⑤サービス提供⇒個別サービス計画、具体的サービスの確認

⑥モニタリング⇒本人・家族の状況確認、ケアプランの修正の必要性

⑦評価⇒短期目標の到達状況

演習

P181

支援にあたってのポイント

- ① ステージアプローチ
- ② パーソン・センタード・ケア
- ③ BPSDの軽減
- ④ 家族への支援



演習：事例読み込み

◆ 事例

耳が遠くなって認知症が進み、ちょっとしたことで怒ったり抵抗するようになった利用者（丸山正男さん・85歳）への支援 P181

個人ワーク：約15分

- ・基本情報に関する項目（P232）
- ・エコマップ（P233）
- ・主治医意見書（P234、P235）
- ・アセスメントに関する項目（チェックポイントシート）
（P236, P237）

演習

丸山正男さんの全体像をまとめましょう

個人ワーク 30分

◆ステップⅠ

丸山正男さんの過去から現在まで

「このような生活をしてきた、こんな人・・・」と文章でまとめてください

◆ステップⅡ

現在の丸山さんと家族の状況は？

今、何が起きていてどのように思っているのか

演習

グループワーク 15分

ステップⅠ，Ⅱ の共有

まとめた全体像を報告し合いましょう

Ⅰ、丸山正男さんはどんな人でしょうか？

Ⅱ、丸山正男さんの生活はどのような状況にあるのでしょうか？

家族の状況は？

*丸山正男さんの強み(ストレングス)は・・・？

丸山正男さんの全体像(完結期⇒他者からの支援を受け新たな関係性を結ぶ)

昭和6年生まれの85歳、14歳で敗戦を経験、価値観の大きな転換を思春期で経験する。

大学卒業後大きな会社に就職、見合い結婚で1男1女に恵まれるが子育てなど家庭の事は妻に

任せ殆ど干渉せず、自身は日本の発展と共に歩むように仕事に専念した、本来位明るく鷹揚な性格でもあり人望もあつく役員まで務めた。

仕事には厳しく時間には特に厳しい、人に指示をされる事を嫌う傾向にある。

趣味は読書と盆栽、付き合いでゴルフなどもしていた。

64歳ころの高血圧により内服治療を開始するなど徐々に健康の喪失も味わいながらの生活であった。

長男は結婚後も一緒に暮し、退職後は妻との生活を楽しみにしていたと思われる69歳で内孫も得、順風満帆な人生が続いていくと思われたが、70歳で妻が死去するなど大きな対象喪失を経験するも孫や長男家族に囲まれ喪失感を乗り越えていった。75歳の頃家を新築する事により馴染みの環境を失う事など大きな対象喪失を経験しても乗り越える強さを持っている丸山さん

ステップⅡ

身体的側面(健康状態・医療、治療の状況)(身体の状況)(日常生活の様子)

アルツハイマー型認知症・高血圧・前立腺肥大で内科・泌尿器科に受診し内服治療中であるが、認知症薬は胃腸障害出現の為中止している。

身長170cm・体重60kg・BMI20.76と栄養状態は問題ない。

移乗・移動動作は自立しているが下肢筋力は軽度低下あり、排泄行為は一人で行っているが見守りを要し、尿もれや拭き残しがある

入浴も最近は拒否が多く家では入れておらず、サービス利用で入浴

口腔ケアも総義歯であるが一人では出来なくなっているが、介助を嫌がる

日常生活全般・服薬管理や金銭管理は長男妻により見守り・介助などの介入が必要となっている

認知症は中等度、日常的な判断がだんだん困難となってきたているが、場所や家族の顔はわかる

ステップⅡ

心理・精神的側面(精神状況・コミュニケーション)

難聴などもあり会話が困難となっているが自分の話したい事は伝えることができる。

コミュニケーションが取り難いため、他者との関係性を保つことも困難であり自身が理解できないまま物事が進む、色々な事が理解できないため大きな不安感の中で疎外感を味わうと共に自分がないがしろにされている様な気がして思い通りにならないと大きな声を出す、嫁や長男の介助や入浴や排泄介助を受ける事は屈辱的と感じている。

社会的側面(社会活動・社会交流の状況)(住環境・地域の様子)(家族介護力)

会社の役員まで勤め上げたが退職後は外出する事も少なくなり趣味の盆栽も最近はやめていない、地域に友人・知人は少なく最近ほとんど外出していない。

自宅は落ち着いた住宅地にあり、10年前に建て替えバリアフリーとなっており必要箇所には手すりが付いている、本人の居室は1階である

丸山さんは今

アルツハイマー型認知症を発症後

内服治療を行っていたが難聴の進行もあり、理解できない事も増えていき、自分が自分でなくなるような不安感や自身が理解できないまま物事が進むような気がして、大きな不安感の中で疎外感を味わうと共に自分が

ないがしろにされている様な気がして思い通りにな

らないと大きな声を出す、嫁や長男の介助や入浴や排泄介助を受ける事は屈辱的と感じ介

護に抵抗を示すようになっている。

丸山さんの家族はこんな人

- ・長男家族(分離機から充実期⇒更年期障害や生活習慣病のコントロールに努め子離れの喪失感を克服し老親の介護問題に取り組む)

長男は55歳、長男妻は50歳、孫は男の子で16歳

長男妻は専業主婦であり自宅で介護を続けたいと思っていますが本人の厳しい言動に振り回され、本人の気に入らない事をしようとするとう殴られることもある、又50歳という年齢から更年期の症状もあるかもしれない。

長男は休みの時など介護を手伝うが、父の老いて行く姿を見る辛さなどもある様で、ついイライラして本人と衝突することが多いができる限り家で生活して欲しいと思っている。

孫はおじいちゃん子なので手伝うことは嫌がらないが、部活などで関われる時間は少ない

丸山さんの介護に困り果てているが、家族として何とか丸山さんを支えていきたいと思っている家族

演習

個人ワーク 20分、

◆ステップⅢ

丸山正男さんと家族が望む生活は？

丸山さんの望む生活の実現を阻害している課題は何でしょうか？

丸山さんの望む生活は？

丸山さんは

家でのんびり暮らしたい、出来れば盆栽をしたい

家族は

昔のように落ち着いて暮らしてほしい、出来るだけ自宅で介護を続けたい

丸山さんの望む生活の実現を阻害している課題

- ①認知症による理解力・判断力の低下
- ②排泄の後始末ができない
- ③活動量低下によるフラツキ
- ④入浴や入れ歯の洗浄拒否
- ⑤趣味の盆栽が出来ない
- ⑥家族の認知症の理解不足

演習

グループワーク 15分

必要な支援の確認

ステップⅣ 「必要な支援は何か？」について

グループで意見交換しましょう

サービスの名前はあげない

【必要な支援のポイントの一例】

- ・趣味だった盆栽を楽しみながら今の暮らしを続けること
(できなくなっている趣味の盆栽と一緒に行うことで再び始めることができ楽しみが持てる)
- ・外に出て体を動かす機会をつくること
(ほとんど外出をせず活動量が低下している デイサービスだけでなく外出し体を動かす機会を持つことにより活動性を高める)
- ・トイレ・入浴・洗面等身の回りのことに手助けが必要になってきた
(介護拒否がみられるがプライドを傷つけないような関わり方をすることにより介助が受けられる)(家族は対応の仕方を学ぶ)
- ・難しい判断は頼れる人が必要になってきた
(間違った判断をする可能性が高くなるが、プライドを傷つけない接し方でリスク管理をしていく)

【必要な支援ポイント】

・排泄の見通し

①排泄介助や入浴・入れ歯の洗浄などにおいて、本人は介入を嫌がるため、排泄に関してはリハビリパンツなどを利用する、又生活パターンを把握し適切な声かけから排泄が自立し自己の回復につなげる。

保清の介入も自尊心を保持する声掛けを工夫し介入を容易にできる

②閉じこもりにより活動量が低下している、本人の趣味活動から外出の機会を拡大し廃用症候群を予防する

③認知症カフェや、家族の会などのピアカウンセリングの場に参加することにより認知症を理解し適切なケアが出来るようになる

・難しい

(間違

方でリスク管

、プライドを傷つけない接し

演習

- ①丸山正男さんは、長男妻の介護を拒否することが多いようですがその要因を考えてみましょう
- ②丸山正男さんのBPSD(介護拒否)を軽減する対応法としてどのようなことが考えられるでしょうか

①長男妻の介護を拒否する要因として考えられことは・・・？

アルツハイマーの進行（いろいろな事が出来なくなってくる不安⇒自分が自分でなくなってくるような不安）

大手会社役員をしていた経歴（人から指示されることを嫌がる）

難聴（会話の中に入れない、自身が納得できていない事で事が進む疎外感）

家族の関わり方（認知症の理解不足、感情を持った人としての理解）

②BPSDを軽減する対応法として考えられることは？

家族の理解 認知症の症状に対する理解 安心できる環境

対応の仕方（PCCの理念）を考える 本人の楽しみ

本人を中心に据えたサポート

演習

本日の演習を通しての気づき

グループワーク（10分）

⇒ 発表（5分）